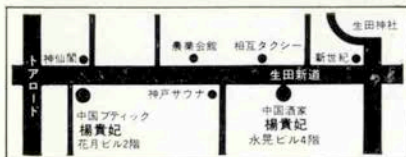


★中国・天津の交友都市神戸・三宮に本格的中国ブティック“楊貴妃”が6月1日開店しました。

華麗なる中国服——お好きな服地を、お好きなデザインでいかがですか。本場のドレスメーカーが常にあなたのアドバイザーとして担当いたしております。これからのタウンウエアーとして、また、お祝い事の出席のとき、中国服はきっと注目の的となるでしょう。いかがですかあなたも中国服を……。

なお、店内には、古い中国の工芸品、置物、貴金属を陳列いたしております。ぜひ一度お立ち寄りください。お待ちしております。

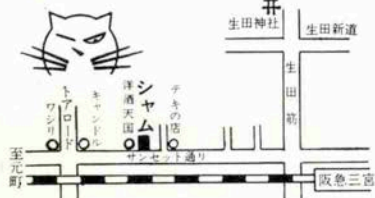
☆1:00P.M.~6:00P.M. 日曜日休み



ヨウキヒ

ロ テ イ

KOBE
MINI MINI
GUIDE



シャム

ダ リ ア

★軽い音楽と白い壁が印象的なお店。それがスナック“シャム”です。階段を下りるとそこは“シャム”のステキなスペース。カウンターの前に腰をかけると、鏡の前の洋酒棚かぶく輝き、シャレたインテリアとともに、気品のあるムードをかもし出しています。奥にはこじんまりとしたボックス席もあるので、グループでくつろがれる向きには最適。夏のひととき、あなたもシャム猫のように魅力的な女性がいる“シャム”へいらっしやいませんか。“シャム”の姉妹店、“女猫”（☎391・4974）、“仔猫”（☎331・9367）、“ベルシャ”（☎391・4974）もよろしくね。

☆水割（OLD）¥ 550 ビール¥ 400 ボトル（スコッチ）¥ 8,000
ボトル（OLD）¥ 6,500 日本酒¥ 500 小鉢¥ 400
うどん、湯豆腐各¥ 550

6:00P.M.~1:00A.M. 日曜祭日休み

新装開店

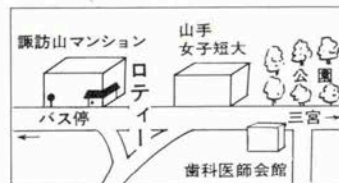
私達は此の度、山の手の一隈で、はて、何屋さんかな？と思われる様な面白い、しゃれた感覚のお店を新装開店いたしました。それはPetiteなLOTIEです（旧名ニート）。

- 男性の御客様には洋酒各種を用意させて頂きました。
- 純珈琲党の御客様に手挽一品珈琲 350~800円迄。
- 舶来ネクタイ各種。
- 女性の御客様にはロティのプライベートファッションを提供させて頂きます。

猛下りのひととき、夕べのつれづれを御相手できますればと楽しみに致して居ります。

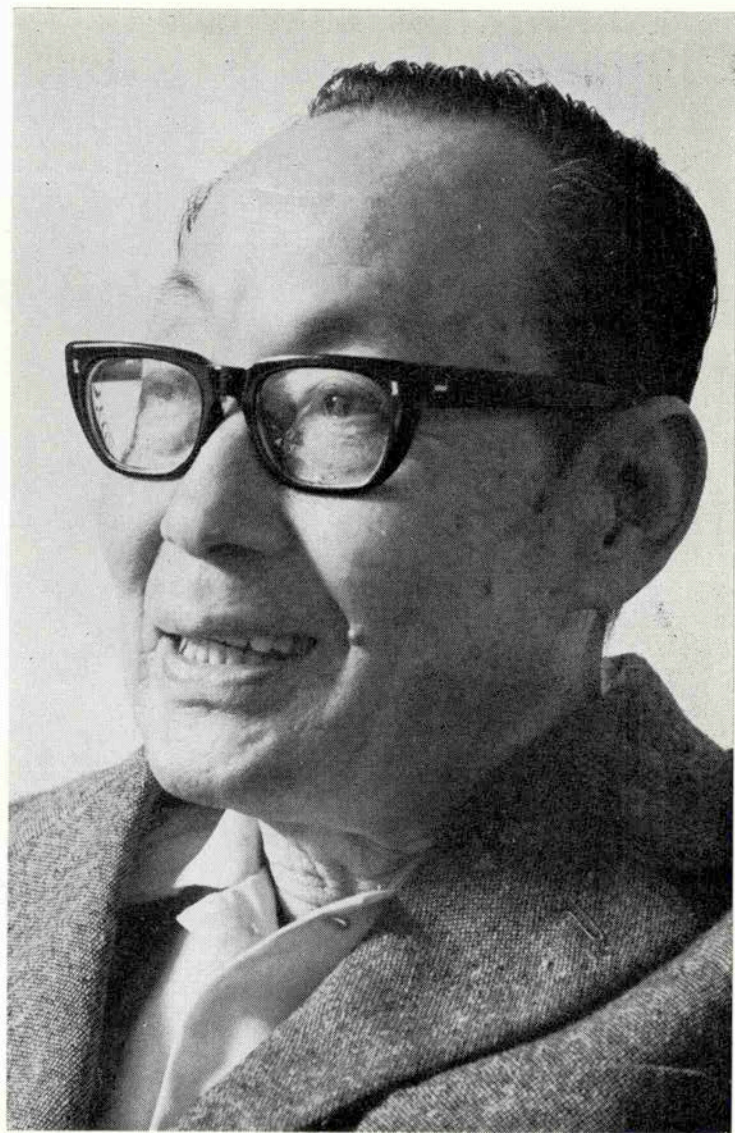
☆1:00P.M.~0:00A.M. 月曜日休み

（シトロエンGS同好会）



★いよいよ本格的な夏の到来です。これからの季節にこそ内容豊富な“ダリア”の料理をお楽しみ下さい。より一層洗練されたフランス料理を楽しんでいただけるようにと、メニューを充実させました。とりわけ、煮込み料理はどんな食通の方にもご満足いただけるものです。
〈ステーキ〉 シャトーブリヤンスステーキ ¥ 3,000 サーロインステーキ シュバル風 ¥ 2,500 〈魚料理〉 舌ひらめ煮込みダリア風 ¥ 700 舌ひらめフライタルタルソース添え ¥ 600 ひらめダリア風 ¥ 700 車えび煮込カルディナル風 ¥ 800 食用がえるクリーム煮ニューバーグ風 ¥ 650 〈肉料理〉 鶏肉とライスのグラタンキエフ風 ¥ 650 牛肉卵焼付スパゲッティ添えフォレスト風 ¥ 800 〈サラダ〉 各種あります。

11:00A.M.~9:00P.M. (ディナータイム 5:00P.M.~) 木曜日休み



PEOPLE OF KOBE 〈7〉

文・野口武彦

〈神戸大学文学部助教授〉

▶ 津田周二さん

夢は六甲の尾根から ヒマラヤの峰へ

登山家

津田周二さん

今日はいささか風邪気味だからといってくつろいだ身なりで現われた津田周二さん。明治三十六年の生まれというから、齢すでに古稀を越えているはずである。現在神戸市兵庫で印刷機器業をいとなむかたわら、兵庫県山岳連盟名誉会長の席にある。われわれのインタビュに応接する間もオフィスの電話は数しげく鳴る。津田氏は

長年の登山に鍛えられた壮健な体軀をもって仕事の第一線に立ついまなお現役の事業主なのである。

その津田さんが湊川神社に近い一劃で呱呱の声をあげたとき、六甲連山はすでにそこにあった。いや、すでに神戸市民の山川拔渉の場としての六甲登山の歴史がはじまりかけていた。津田さんの祖父にあたる人物がおそらく



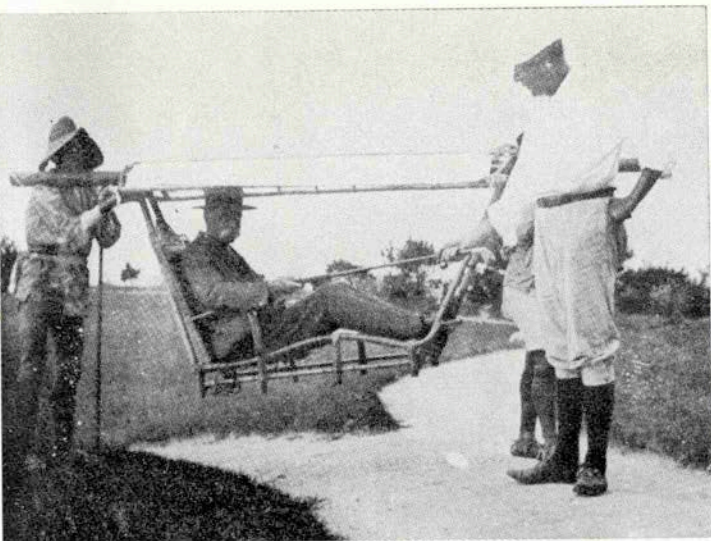
昭和42年春、津田さんを団長とする兵庫県山岳連盟のパーティが征服したアラスカのマウント・コウベ（4,400m）

は日本で最古の世代に属するギリシヤ正教の信徒だったとの由で、その影響で毎週かよった日曜学校の神父さんに山歩きの手ほどきを受けたのが、津田さんの登山生活との結縁である。明治元年生まれの御父君はやはり印刷機器をあつかう個人商店をいとなんでいたが、その店にはたらく若い衆たちには連れられて六甲の裏山を歩きはじめたことが、その後の津田さんのキャリアの下地をつちかった。つとに明治四十三年、神戸徒步会なる団体が作られていたといわれるが、やがて大正年間に入ると在留英国人ドント氏の周囲にアルペン・クラブ同人が組織され、再度山の善助茶屋を根拠地にしてさかんな六甲登山が行われるようになる。今日でも使われているルート・マップの原型ができあがるのも大正九、十年の頃だとのことである。すでにこの時分から、出勤前のサラリーマン、商店主、商社の番頭さんなどによる早朝登山がさかんだった。津田さんの青春は、そうした六甲開発の歴史と重ね合わされていたわけである。

わたしはわが国における登山の歴史をつまびらかにしないが、江戸時代も幕末までは、純粹な趣味としての登山、スポーツ登山の伝統はまずなかったといつてよいように思う。高山霊峰をたずねるのは信仰登山であった。富士や出羽三山、白山や大山に

善男善女が六根清浄を唱えてつどうのも、スポーツ的要素は皆無でないにしても、そのタテマエは山岳信仰であった。江戸幕末の一時期、各地で盛行した富士講にしても、その本質は古くは役小角、平安から中世の山伏の系統をひく修験道、いわば世俗化された修験道の一種であったと解されよう。

こと六甲登山の歴史については、いよいよわたしは無知である。津田さんのお話では、いまでも神有電車沿線の唐櫃には修験道の行者にゆかりの村落があるという。そしてまた六甲最高峰から少し東の石野宝殿にある三十三観音の祠。そういえば、小生かつて灘区青谷に在住したみぎり、日曜ごとに摩耶山頂までの登山をこころみたとがある。もちろんこれは三日坊主で終ったが、その折山道の滝口に不動尊を祀る小さな山寺を見かけた記憶がある。おそらく六甲連山にも、近代登山以前の昔、修験道と結びついた独特の登攀路があったのではあるまい



昔は六甲山へこのような駕籠で登っていた

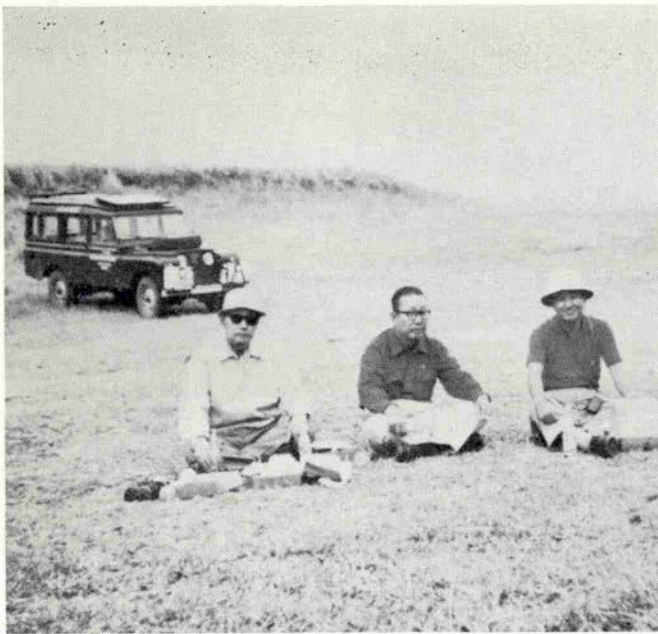
か。あえて識者の御教示を乞うしだいである。

それはともかく、近代における六甲登山は、明治以降神戸に在住した外国人たちによって、スポーツとしての登山が紹介されたことからはじまる。たとえば六甲登山路のあちこちに、アイスロード、ノースロード、シュラインロードなど横文字の地名が残っているのもその影響である。現在の阪急六甲および青谷には、登山駕籠が屯していて山道を日本最古のゴルフ場、そしてその近辺の外国人別荘地まで往復していた。大正年間、特にその十年代に入ってから、神戸市民の身体鍛練、健康増進としての登山が本格化することになる。

再度山を中心としていた登攀ルートはやがて東にも拡がり、大正十三年、当時朝日新聞社神戸支局長だった藤木九三氏の命名によって芦屋にロックガーデンが誕生することになる。この人物の主宰にかかるロック・クライミング・クラブ(RCC)に、若き日の津田さんが加盟していたことはいまでもないだろう。ちなみに、当時の東六甲は植林いまださかんならず、磊々たる岩塊が山腹につらなっていたという。これがロックガーデンの由来である。やがて昭和初年、六甲ケーブルとロープウェイが開設され、それと相前後して摩耶ケーブルも完成する。すなわち、今日かくある観光登山の大略ができあがることになるのである。

六甲の裏山、奥山をきわめつくした津田さんは、当然もつと広い天地に驥足を伸ばさなくてはならなかった。白山、立山剣岳、槍、穂高と、津田さんの行動半径はひろがってゆく。なかでも一期の思い出は、厳冬の南アルプス、甲斐駒ヶ岳の北沢を單身一路まっしぐらに滑降したことであるという。大正十二年からスキーを学んだ津田さんにとって、スキーは登山技術の一つだった。真冬の深山、無人の世界に展開される自分と雪だけのスキー。大自然との格闘。いや、むしろ大自然のふところに抱かれていやまざる孤独な自己との格闘。

ひとたびこの孤独からの呼び声に耳を籍した人間は、



アフリカタンザニアのゴロンゴロンクレーターにて(72年)。左端津田さん中央宮崎神戸市長

とはいえそれに先立つこと四年、昭和四十二年の春四月、まだ寒風吹きすさぶアラスカの処女峰の一つを津田さんが団長として加わった兵庫県山岳連盟のパーティが征服したことは意外に知られていないようである。カナダ国境に近いアラスカ南岸、フェアバンクス東方およそ四百キロの地点にそびえるこの四千四百メートルの無名峰は、マウント・コウベと名づけられ



1971年、キリマンジャロ（アフリカ）登頂のとき

もはや日本の狭い山河に局踏していることはできないだろう。津田さんの夢は海拔八千メートル級の高峰をつらねるヒマラヤに飛んだ。しかし、遺憾ながらその夢は実現するにはいたらなかった。登山家の壮健だかりの三代から四十代、円熟した技術と疲れを知らぬ体力とが平衡するあぶらののりきった一時期を空しく徒爾に送らせた原因は、いうまでもなく戦争である。遠いヒマラヤのみならず、日常親しんで来た六甲の峰々さえその一部を戦争に奪われなくてはならなかった。最高峰は軍事施設に変わり、摩耶の掬星台には高射砲陣地が設営された。やがて昭和二十年三月、神戸市街を灰燼に帰した大空襲は、六甲の山腹を紅蓮の炎であかあかと染めあげることになるだろう。

津田さんが久恋の地ヒマラヤ山麓を親しく踏むのは、戦後も二十五年以上を闊した昭和四十六年のことであった。いかに身体強健な登山家でも、と津田さんはいう。この年齢になったら四千五百メートルから五千メートルが限度なんです。だから津田さんはヒマラヤではもっぱらトレッキング（麓歩き）を楽しんだ。また素人ばなれした山岳写真家でもある。津田さんのカメラに撮影されたカンチンジェンガの峰。高原から遠く仰がれるこの世界第二の高峰は恥じらうように白雲を身にまとわせて、半世紀越しのあこがれの視線を送る津田さんに莞爾と微笑みを返しているかのごとくである。

て全世界に登録された。その途次、津田さんは登山隊に同行した宮崎現神戸市長とともに空路アラスカの大地を横断する。かつて奇しくもB29の発進基地だったというノース・エアポートから、特別に訓練されたブッシュ・パイロット小型飛行機を駆って山岳曠野に自由自在に着陸離陸する空軍兵士が援助してくれた。四月とはいえまだ厳寒のさなかにあるアラスカを一路北へ。津田さんの足跡は、三千メートル級の山々が蝸集し楡比するブルックス・レンジを越えて、北氷洋に面した極北の岬ポイント・パロウにまで達する。着陸地点のどこにでも周囲にひろがる風景は、満目簾条一色、零下二十五度の薄明の土地である。颯々たる朔風が肌を凍らせ、小糠のような雪が絶間なく空を昏くする。北極圏の岬。そうはいっても北洋に突出したこの孤独な土地の先端は、いちめんの氷雪に蔽われて、どこまでが陸地やら海面やら区別もつかない。荒涼というよりも殺伐をきわめた光景が忘れ難く津田さんの眼に灼きついたという。

しかし、どんな土地にでもそれなりに人間の生活はある。津田さんが訪れた山岳エスキモの集落にもそれがあつた。サケ、マスの漁撈とトナカイの狩猟で長い冬を生き抜く人々の暮らし。舞い上がった飛行機の窓から眺めた、雪原を疾駆する五百頭のトナカイの群れ。そんなアラスカの印象を淡々と物語る津田さんからは、遠く人里はなれた高山へのあこがれと人間の生活に対する強烈な郷愁との不思議な共在のようなものが感じられた。北の岬にたたずむ津田さんの眼の前にひろがる晦冥の海は、眼路はるかに伝説のテュー



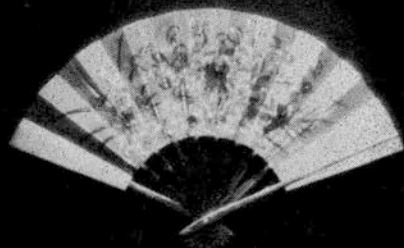
津田さん(右)の話は世界の山へと果てしなくひろがっていく

レの王の界域につらなり、その背後には苛酷な生存条件に耐えぬく現地人の生活がある。そしてこのような人間の世界からの遠心力と、それへの求心力との均衡のあわいに、登山家、探険家と呼ばれる人種の塊の相貌が刻み込まれているのではあるまいか。

ヒマラヤを訪れた翌年の昭和四十七年、津田さんの足跡はアフリカのキリマンジャロ山麓にしろされている。草原に象が吠え、沼地にワニがひしめき、コブイノシシが疾駆し、愛すべき木登りライオンが樹上に戯れるケニア・ウガンダの高原。そんな動物の生態をカメラに写しまくる津田さんには、こういってはいささか失礼な申し分ながら、七十歳を過ぎてなお満々たる稚氣が溢れている。そしてまたその気の若さが、エスキモ部落で会った若いイタリア人、ルバング島の鈴木青年、アフリカの草原で遭遇したという大陸を単身自転車で横断中の日本の若者などに、世代差を越えた共感を覚えさせるのだろう。昔の日本人だけが偉かったのではないという津田

さんの言葉は、かならずしも日本の若い世代に対する溢美の言ではあるまい。

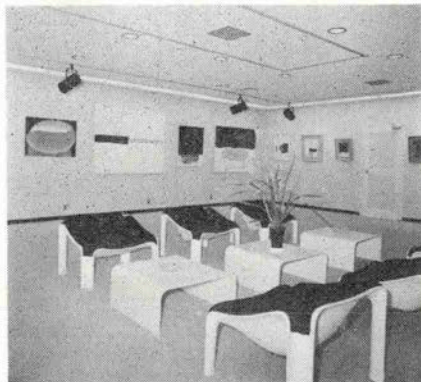
いまは南米遠征を計画中だという津田さんは、次々と新しい目標にいくどむ壮図をいまだに捨てていない。ひとはなぜ山に登るのか。なぜなら山がそこにあるからだ。そしてそのようなものとしての山がこの地上にあるかぎり、津田さんはつねに若くありつづけることとわたしは確信する。



真心を伝える

記念品・贈答品
平山商会
 神戸駅前 TEL(078)351-1551(代)

白山画廊



◀ 中西・西村四人展の風景
 白山画廊オープン
 津高・元永

8月予定 岡田淳個展

9月予定 元永定正門下展

新人のために無料解放します

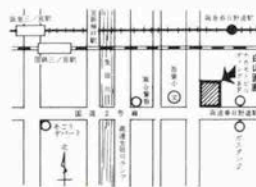
白山画廊では広く新人のアーティストのために、画廊を無料解放いたします。

お申込みの上、津高和一、足立巻一、三浦照子さんらの協議によって選考させていただきます。

《白山画廊》

葺合区吾妻通3丁目
 1-8 ナカモトビル8F

☎神戸
 (078)251-8251
 (大代表)



談牡丹燈籠

文学座公演 杉村 春子

三津田健、北村和夫、大出俊ほか

昭和四十九年八月一日(木)／午後六時三十分
神戸文化ホール 大ホール 主催・神戸市

A席／二、〇〇〇円
B席／一、五〇〇円
C席／一、〇〇〇円



杉村 春子

闇にうかんだ燈籠に
映し出される色模様
欲にかられて覗いたさきは
廻る因果のしがらみ地獄



前売券好評発売中

神戸新聞会館(〇七八・二三一・四八〇六)
神戸国際会館(〇七八・二五一・八二六)
大丸神戸店(〇七八・三三一・八二二)

日本楽器神戸店(〇七八・三三一・一九一)
垂水プレイガイド(〇七八・七〇六・四八二)
阪神交通社(三宮)(〇七八・三三一・〇二二〇)

さんちかプレイガイド
神戸文化ホール(〇七八・三三一・二九五三)
(〇七八・三五五・三五三五)

 **神戸文化ホール**

神戸市生田区楠町4丁目26 ☎078-351-3535

★神戸の催し物7月ご案内

＜音楽＞

★一人囃子コンサート

1日(月) 6時半 芦屋ルナホール
九〇〇円 出演/四人囃子
ゲスト/ハルヲフォン

★ワイアーン・オール・スターズ

1日(月) 6時半 神戸国際会館
S・二〇〇〇円 A・一五〇〇円
★土曜コンサート「ピアノと室内楽の夕べ」

6日(土) 6時半 県民小劇場
未定

★第26回神戸中央合唱団音楽会

7日(日) 2時 神戸文化大ホール
八〇〇円

★神戸職場人合唱連盟発表会

7日(日) 1時半 神戸文化小ホール
無料

★エル・ヴィノ一周年記念公演「フエスタ フラメンカ」

10日(水) 6時半 県民小劇場
一五〇〇円 出演/山崎やすし、和泉千枝

★大阪フィル秋山和慶指揮「英雄」

11日(木) 7時 神戸文化大ホール
民音会員・二〇〇円 一般
A・二〇〇円 B・一七〇円
指揮/秋山和慶 バイオリン/阿部靖 管弦楽/大阪フィルハーモ
ニ交響楽団 曲目/ドボルザーク・序曲「諸肉祭」、メンデルス
ゾーン・バイオリン協奏曲、ベ
ートベン・交響曲第3番「英雄」

★邦楽演奏会

13日(土) 2時 神戸文化中ホ
ル 未定



▲華麗なフラメンコ

★土曜コンサート「マリノバと打楽器のジョイントリサイタル」

13日(土) 6時半 県民小劇場
五〇〇円

★74兵庫県芸術祭「日本音楽集団演奏会」

13日(土) 6時半 芦屋ルナホール
八〇〇円

★ウイエル室内合奏団サマー・コンサート

19日(金) 6時半 芦屋ルナホール
九〇〇円

★金 昌国フルート・リサイタル

19日(金) 6時半 明石市民会館
中ホール 一般・九〇〇円 学生
・七〇〇円 曲目/パヴァーフル
・ソナタ、トリオ・ソナタ他

★モーツァルト・フルート四重奏曲

金昌国はドイツを中心に活躍する
国際的フルーティストとして有名
★ペトロ&カプリシヤス演奏会と生
録音

★エレクトロニクスとも祭

22日(月) 4時 ②6時半 神
戸国際会館 無料

★エレクトロニクス神戸地区大会

22日(月) 6時 神戸文化中ホ
ル 七〇〇円

★ハービー・ハンコック・クアルテット

24日(水) 7時 神戸文化大ホ
ル S・二七〇〇円 A・三三〇
〇円 B・一八〇〇円 米ジャズ

★神戸っ子読者10名権「フエスタフ

ラメンカ(7月10日)に招待ノ
フラメンコとスペイン料理の店エ
ルヴィノが一周年記念公演を開催。
大阪より和泉千枝を、そしてスベ
イより山崎やすしを迎える華麗な
フラメンコをお楽しみ下さい。葉
書で住所・氏名・年齢・職業・T.E
Lをお書きの上、〒650生田区東町一
室までの「大神ビル8F神戸っ子編集
室」まで、先着順受け付け。

＜演劇＞

★シアター界で人気ナンバーワンの

グループ公演

★津軽三味線「高橋竹山」

25日(木) 6時半 神戸文化大ホ
ール 労音会員・一〇〇〇円 一
般・A・一五〇〇円 B・一三〇〇
円 C・一〇〇〇円 出演/高橋
竹山・須藤雲来、高橋竹山・曲目
/第一部「寒桜」新じよんがら節
・津軽三さがり他、第二部「津軽
の民謡」津軽音頭、よされ節他
津軽の風土が生んだ熱い歌(は
ち)さばる。盲人として芸人とし
て苦節五十年、竹山の魂!

★俳優座公演「ワーニャ伯父

6日(土) 6時15分 7日(日)
1時半 ⑧6時15分 ⑨9 10
1時半 ⑩11日(木) 6時15分神戸
文化中ホール 労演・二〇〇〇円
出演/永井智雄、中村美代子
★劇団フットパン公演「葵上」

★「新泉源氏物語」

14日(日) 6時 芦屋ルナホール
五〇〇円

★七匹の子ヤギと狼

26日(金) ①10時半 ②1時半
27日(土) ①10時 ②1時 ③3
時半 神戸国際会館 A・二〇〇
〇円 B・一〇〇〇円 C・八〇〇
円 主催/日本児童演劇センター
＜その他＞

★第10回民謡のつどい

9日(火) ①10日(水) 11日(木)
12日(金) 9時半 神戸国際会館
三〇〇円

★映画会「愛すれど心さびしく」

12日(金) 6時半 13日(土) 1
時半 神戸文化小ホール 三〇〇円
★ミュージカル

14日(日) 12時半 神戸文化小ホ
ール 二〇〇円 主催/フェアリー
★東映シネマ

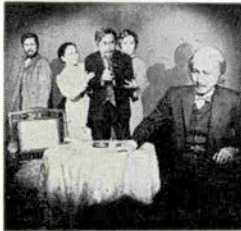
15日(月) ①2時 ②6時 神戸
文化小ホール 二〇〇〇円

★民謡夏祭「ふるさとの歌と踊り」

16日(火) 6時半 神戸文化大ホ
ール 民音・二〇〇〇円 出演/
三和光児、おぼこグループ、他

★中国上海曲技団

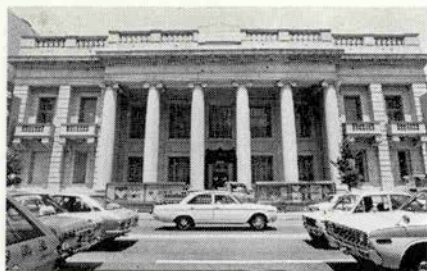
29日(月) 30日(火) 31日(水)
6時半 神戸国際会館 S・五〇
〇〇円 A・四〇〇〇円 B・三
〇〇〇円 C・二〇〇〇円 D・
一〇〇〇円



ワーニャ伯父



高橋竹山



▲第一勧業銀行

▼店内



時代を生きつづけていく長い眼、といったものが感じられるようになってきたから不思議です。同じ建物が、かつての意味とは、全く違ったことを持ちはじめたわけです。それと同時に、古い良いものを壊してしまって新しいものをでかでかとでっちあげたような銀行の現場に出あうと、なんとお金の無駄使いをする金融資本かといった反応になります。なんともったいないことをするか、言葉は“コミュニティ”かもしれないが、行動は“投資屋さん”といった評価でしょうか。

●古いものと新しいものをしっかり組合せることができれば、さらに時代を蓄積していく行動を表現することになると考えられます。堂々たる石の壁を写すミラーガラス、オーダーの列柱の前の石畳の広場といった手法を、今後期待したいと思います。（水谷顕介）

●重々しいから安心して信頼できる銀行の建物、という常識は、今やまったくなくなってしまったといえます。気軽に立ち入ることができてサービスがいきとどいていて事務処理がてきばきとおこなわれているという期待感さえ裏切らなければ、むしろ流行と時代の先端をいく目立つスタイルでという風潮が、銀行建築界にひろがっています。お金をしっかりと預けるという金庫の機能よりも、むしろ日常の社会生活にともなうお金の一時的保管と支払い事務という機能が一般の市民にとっての銀行に対する要求になってしまったからでしょう。コミュニティバンクなる言葉もあらわれています。

●金庫番としての銀行権威のイメージとしての建築様式という感覚が全く頭からなくなってしまった最近、昔の建築の銀行に出あうと堅実さ、無駄使いをしない精神、こつこつと



▲神戸信用金庫のモダンな社屋

▼店内



神戸のアーバンデザイン
《新旧比較シリーズ》⑤
銀行の場合

水谷顕介＋チーム・UR

88

縫製 ▼



▼ カタログ



アイロン ▲



▲ 裁断

●これは工場というよりは工房といったほうがふさわしい施設です。アトリエの作業場とでもいうべき機能です。手仕事の場合です。ファッション都市化の実態は、こういった施設が町々に満ちあふれていくということになるでしょう。住宅・商店・工場——即、住・商・工といって区分では別けきれない機能、また別けていくべきでない人間の活動が、生活文化の充実とともに多元多次元に展開していくべきだという思考です。

●この建物は、まったく新築の3階建です。こういった機能を支えてくれる施設そのものとその活動にふさわしい立地条件は、既存のものではなかなか存在していないために、どうしても自分で新たに作り出すよりしょうがなかったといえます。この場合は、それが自分の力で実現できたラッキーなケースですが、今に誰でもが、すべて自分で新築ということになると大変です。やれたものではないということにもなります。ファッション都市

化の実態は困難になります。

●工場、ねぐらマンション、お店は町にはらんしていますが、こういった要求に答えてくれるスペースはほとんどないといっているでしょう。

●ファッション都市化のプログラムとして、こういった工房づくりが必要です。新築でなくともいいのです。古いレンガ造りの工場や倉庫の改修、酒倉の利用などがふさわしいと思います。新築としては、共同住宅の足もとや住宅団地のセンターなどに組みこまれるのがふさわしいでしょう。立地としては、工場地帯を街のなかの住宅地として再構成していくような地区、例えば東灘などは山麓の学園ゾーンと組合せていくこともできて適地だと考えられますし、住宅地だけでなく住宅地に近接した働き場所を導入していったほうがいいところ、例えば垂水などがあります。

(水谷順介)

写真は神戸シャツの新工場(神戸カラーシャツ研究所)



☆神戸を福祉の町に(7)

上のマークは車イスで利用できる箇所にはられる国際シンボルマークです。

福祉教育の実践を

橋本 明

この春、日本で最初の重症心身障害児施設「島田療育園」(東京)の園長を13年間勤められた小林提樹さんが日本の福祉に絶望し、精魂つきて辞職されたニュースは福祉関係者に大きなショックを与え、日本の福祉の貧困さを改めて認識させられることとなった。

「文芸春秋」の六月号で小林さんは苦闘の13年間をふり返り、わずかの金さえ出せばそれで事足りれりとする福祉行政への怒りをのべると同時に、福祉が広く国民すべてのものとなっていないがために、ハンディを負った人たちを特別視し、差別する日本人の貧困な福祉観を指摘し、本当の福祉社会を建設するためには身障者に対する偏見をなくし、差別をとり除くようにしなければならぬといふのべ、そのためにはどうしても小さい子供の頃から身障者をよく理解し、一人の人間として暖かく見守り、助け合っていくような教育をぜひしていかねばならないとして、福祉教育の必要性を痛感しておられる。

ヨーロッパ人は「福祉」というと「年金」とか「住宅」を思い浮かべるそうだが、日本人は「身障者」や「福祉施設」を連想するという。この考え方の相違は日本人とヨーロッパ人の福祉というものに対する考え方の違いを端的に示しているといえよう。すなわち、欧米では人々は福祉を自分たちの日常生活とかかわりをもつものとしてごく身近かに感じているが、日本では、福祉はハンディキャップをもった人や気の毒な人のための仕事であり、自分たちとはかわりない、別の次元のものだと考えている人が多いことである。もともと、今までの日本の社会福祉事業は弱者の保護・救済という点に

力がそがれ、その域を出なかったもので、私達が福祉というものに対して特殊な感覚をもつようになったのも無理からぬことであろう。

ヨーロッパにおいてもかつては同じような感覚でとらえられていたようであるが、日本ほど特別扱いはされていないように思える。

戦前にヨーロッパを訪れた寺田寅彦は「わが国の身障者は、身障者ゆえの不幸だけでなしに、この国に生まれた二重の不幸を背負っている」とするどく批評しているが、同じ身障者であっても日本で暮すのとヨーロッパで暮すのとではずいぶん気持の上でも違うようだ。身障者であるが故に特殊視され、差別され、就職や結婚のトビラも閉じられ、いろいろな負担が身障者やその家族だけに集中しているのが日本の実情のようだが、欧米では身障者やその家族の負担をできるだけ軽くし、国や地方自治体、あるいはコミュニティの援助で、身障者であるが故の社会的ハンディを極力とり除き、一般市民と何ら変わらない暮しができるような努力がなされている。また、とても大きな福祉施設をつくらなくて、小さな施設を町の中や住宅地に分散してつくったり、養護学校を解体して身障児の学級を普通校の中につくり、相互交流をはかるカリキュラムもつくられていく。また身障者が町の中でいっしょに仕事や生活ができるよう、道路や建物、乗物、住宅にも細かい配慮がなされている。日本でも最近こうした動きは少しずつ出てきたようであるが、身障者に対する壁はまだ厚い。

先月号で述べたように、学校の教科書に身障者に関する

る誤った記述がなされていて、しかもそれが当然の事のように考えられていたのが日本の教育の姿勢のようだが、これではいつまでたっても偏見や差別はなくなりはない。

一昨年、有吉佐和子さんが中央教育審議会で、小・中学校の社会科教育の中に、障害者施設や老人ホームでの奉仕活動を入れるべきだと発言し、話題をよんだが、今の教育体系では一般の子供たちが身障者に接し、彼らをよく理解するといった機会は全くといっていいほどない。抽象的、解剖学的知識を頭につめこむよりも、実際に身障者に身近に接する機会を多くもった方が、よりよく理解できる場合が多いことは論をまたないだろう。たとえば、神奈川県の小田原市立千代中学は学校教育の中に福祉教育をとりいれている全国でも数少ない学校である。

神奈川県では昭和25年から県下の中学、高校を選び、社会福祉研究普及校という制度をつくって老人ホームや福祉施設を訪問し、お年寄りやからだの不自由な人たちを元気づけてあげてを学校教育の実習としてカリキュラムに組み入れている。子供の頃からお年寄りや身障者に接し、彼らの立場や生活を正しく理解できるような教育はこれからぜひしていく必要があるが、その前に現場の教育者たちが社会福祉に対する正しい知識と、人間を愛する心をもつことが何よりも大切であろう。受験勉



ちえおくれの生徒たちを普通の学校で教育し、子供の頃から相互理解をはかるカリキュラムが組まれている。（写真はシアトルの学校で）

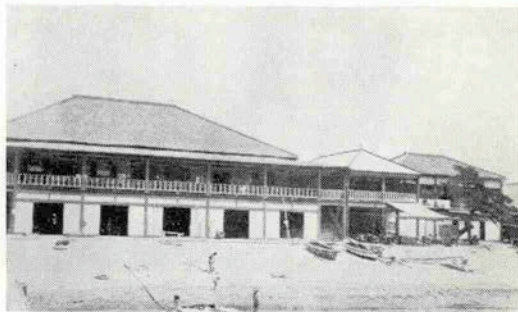
強にあげられ、点数の高いものほどすぐれた人間だと思わせるような教育からは、智恵遅れの子供たちを大切にすることは生まれてこない。今や学校でも、家庭でも、社会でも競争原理が優先し、「自分のため」ばかりが強調されて、「他人のため」に何かをすることの喜びは教えられない。国家も個人も目標を失ない、自分だけの事を考えて生きる社会からは本当の福祉は育ててこないような気がするが、どうであろうか。こうした今の日本人の生き方、自分中心、能率本位の考え方を反省し、もう一度人間の尊さを考えなおし、障害者に対する憐憫・誤解・偏見を是正して真の福祉社会をつくろうと、神戸大学教育学部教授の伊藤隆二さんは昭和40年から福祉教育の研究をつづけ、いくつかの場所で実践を試みている。

たとえば幼稚園、小学生、中学生、高校生、大人用にそれぞれわかりやすい副読本や手引書を作製したり、現場の教師向けの福祉教育研究の雑誌をつくったり、その他スライド、映画、紙芝居などを使って障害児に対する理解を広める他、モデルケースとしていくつかの学校で福祉教育をカリキュラムの中に組み入れてみることも計画されている。

また、「誕生日ありがとう運動」主宰者の藤本隆さんは中学や高校の修学旅行の機会をぜひ福祉教育の場に、と提唱している。こうした教育はすぐに効果が出てくるものではないが長い時間をかけて、さまざまな試みを地道にやっていくことが大切であろう。

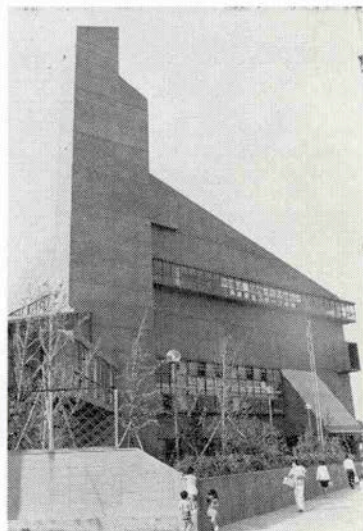
千代中学のような試みを神戸でもぜひやってもらいたいものである。

神戸遊戯誌 129



〈写真上〉

神戸港開港当時から、在留外国人専用だった敏馬（みるめ）の砂浜。現在は沖に広大な摩耶埠頭の埋立地がひろがって見る影もなくなった海岸には、ボートハウスとヨットクラブがあった。



〈写真下〉

昭和47年竣工の県立スポーツ会館

★過去の輝かしい業績の

陳列会場を

最後にもう一度今まで書いてきた全体を振り返って特に銘記すべきいくつかの事柄を拾ってみよう。ゴルフのことは前に述べたので次のビリヤードから始めよう。

神戸におけるビリヤードの最盛期は昭和初年（二十二年頃まで）だったが、三宮を中心に全市にわたって二百軒もあったのだから、現状とは比べものにならない盛況ぶりである。若い女性が一台に一人はついていて独特の声を張り揚げてゲーム取りをしてくれたが、これも今ではなつかしい思い出である。ヨットの日本人の第一号ファンでの中にベテランとなった人が、現在生田区元町通四丁目にある柴田洋服店主の初代音吉氏であったことを告げておきたい。硬式テニス戦前は関学、神商大、甲南の独壇場といってもよいほどで、特に関学の堀越・鶴原

のダブルス・ペア、神商大の布井選手の活躍が断然光っており、戦後は松岡（甲南大）石黒（関学）沢松姉妹諸選手などがガン張っている。軟式は戦前から全国のAクラス級で今日へかけて学生、一般共に他府県を圧している。兵庫県こそ『テニス王国』の一つといつてよからう。海に近いところに裏山特に六甲山を持つコウベから外人を初め多くの日本人登山家が輩出したことは当然といえばいえるが、今日でもこの貴重な天恵の自然を守るためにこれ以上の公害をふやさぬよう市当局はもとより全市民が一丸となって裏山を大切に扱う必要があると思う。青谷にある神戸乗馬クラブ場が日本最初のものであり、ここからかつてのベルリン・オリンピックの優勝者西選手はじめ多くの優秀選手が生まれたことも市民は忘れてはなるまい。新開地は戦後市民から忘れかけられた存在となった観があるが、聚楽館スケートリンクの長年の功績にこたえていつまでも続闘してほしいと思う。卓球が裏山の多くの茶屋のピンポン台を中心にして神戸市

エピローグ② 青木重雄

民に愛され、発展したことは全国でもまれなことであらう。

社交ダンスも徐々に東京はじめ全国各大都市に復活しつつあるようだが、わがコウベは発祥の地なのだから、他都市にさきがけてよいダンスホールが復活してほしいと願うのはオールド・ファンの人である私ひとりではなからう。あのロマンチックで落ち着いたホールのふんいきこそこのコセコセと落ち着きのない現代人生活にとって一服の清涼剤となるのではなからうか。昭和十年頃鈴蘭台の山中にあった鈴蘭台ダンスホールの思い出は今もさわやかに時折り私の夢を去来する時がある。

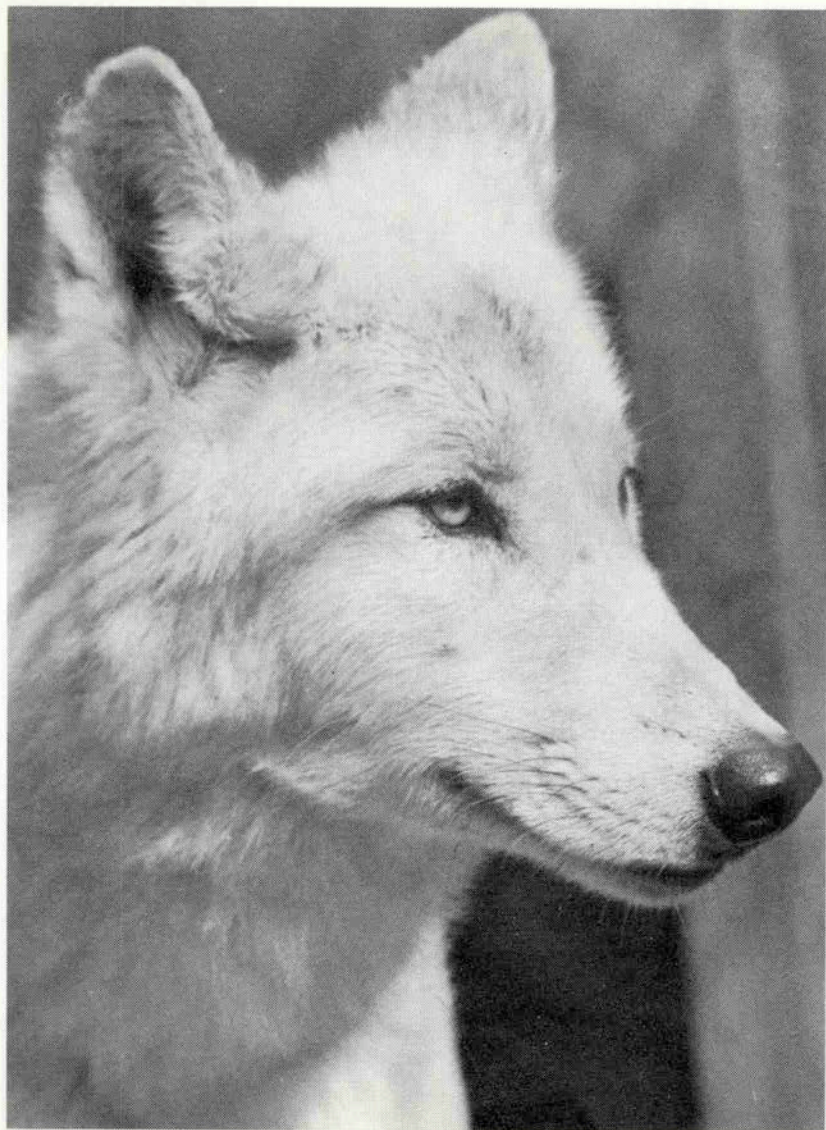
諏訪山公園にあった武徳殿の戦前の役割りは剣道、柔道、弓道界の人々の胸に常に焼きつけられてほしいものである。今はあのふきんは建て物で埋められてゴチャゴチャしているが、昔は一つの聖域にも似たムードに包まれていたものだ。新しい武徳殿は天地公園に移ったが、旧武徳殿所在地の標識ぐらいいつてもよいような気がする。

バレエボールといえば、だれしもすぐに日紡貝塚やヤシカの名を思い浮かべるだろうが、昔は姫路高女が全国的に活躍したものだ。男子チームでは神戸高商が大正十二年から昭和六年までの九年間連続して全日本選手権を奪うという不滅の金字塔を打ち立てていることを思い出してほしい。もう七十歳以上の人でないとおぼえていないと思われるのは大正の初めに須磨の大池の周囲で自転車レースが行なわれていたことである。明治十四年に輸入されてから大正へかけてようやく全国的に普及し、一時は自転車時代を現出したことがあるが（当時の値段は二八〇円）、天下の名勝地須磨でサイクリング・レースが大正四年から七年頃まで催されていたことを知ることには興味深い。この頃のレース写真を持っておられる人があれば、本誌まで御一報願えればありがたい気がする。

バスケット・ボールが神戸のYMCAで始められたが（東京について早かった）、大正三年頃和服姿にタスキ

がけで試合を行なっている写真を見るとほほえましい気がする。他方器械体操の設備が昭和の初め頃YMCA内にしかなくて、当時の強チームである神戸二中（兵庫高校）などの選手がしきりにここへ出かけて練習したものが、日本近代スポーツの紹介に果したYMCAの業績は大したものである。さらに器械体操女子の部では、今は知る人も少ないだろうが、野田高女が先駆的な功績を残している。嫁入り前の若い女性に器械体操などさせては困りもの——と世の多くの親から反対の声の強かった時代に、このスポーツの実施に踏み切った同校の勇断は改めてほめられてよからう。

野球における神戸ははじめ県下各高校の長年の輝かしい勝利の記録は知る人が多いと思われるのでここでは書かないことにするが、ことしの春の選抜大会に報徳高校が優勝したことは久方ぶりの偉業である。戦後は戦前に比べて県下チームの実力が低下したといわれているだけに、報徳の優勝で「県下チーム衰えず」と自信を取り戻したファンも多かったと思う。年々ふえる海の公害のためヨットはじみボート、水泳、魚釣りなど海の遊戯が困った状況に追い込まれつつあることは残念しごくである。普通りの状態を望むことはむしろ至難だが、なんとか瀬戸内海をキレイにすることを今後ともみんなで心掛けたいものだ。こゝろで結論めいたことを言わせてもらうと、明治からスタートして大正、戦前昭和とつづき今日へかけての百年ほどの間に無数の近代スポーツや遊戯が日本に輸入されたが、それらのほとんどを自分流に消化したばかりか、その多くで優秀な効果をあげたわれわれ日本人の業績はまことにりっぱである。しかも戦前のエリート傾向からしだいに脱皮して、いわゆる「百万人のスポーツ」へと歩みつつあることは御同慶のいたりである。最後に希望を一言いわせてもらおうと、西代の県立スポーツ会館のようなところに過去の県下各チームの全国的業績や記録写真等を飾った会場を作ってもらいたいということである。（四九・五・一七記）終

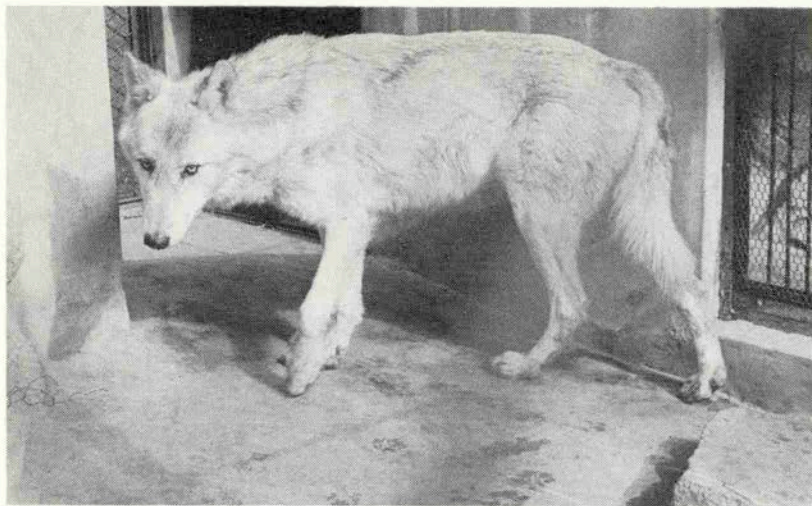


動物園飼育日記 — 98 — 亀井一成

ないしょ話シリーズ(19)

尾を振るシンリンオオカミ





狼はメスの方がひとまわり大きく、どうやら姉さん女房である。

オレたちの生涯をオリの中に閉じこめた人間共め！
キバをむき、ことごとく抵抗していた捕われの動物たち
も、長い歳月の末には空腹という、生きものにとって哀
れな苦痛からだろう、次第にオリにもなじみ、人間にも
馴れてくる。

しかもその「ヒト馴れ」も、単に人間を無視すること
からはじまり、遂には我々を自分たちの道具にさえして
しまう頭脳派もある。私はそのヒト馴れタイプを幾つか
に分けながら、動物個々の性格や習性を探り知ること
にしている。

例えば類人猿一族、なかでも知恵者チンパンジーはな
かなかの要領型「頭脳派タイプ」である。ともかく要領
のいい彼等は育ての親である私こと、お父ちゃんがそば
にいない、見えないとなると、とたんに「よそいき」の顔
して入園者に「おべんちゃら」拍手までしてごちそうを
貰い歩いているが、そこへ、ちらっとお父ちゃんの姿が見
えでもしたら、たちまち豹変、やにわに食べかすやら、
ウンコまで握って、エイノ、ついさきほどまで頂いてい
たそのお客さんに投げつけ、いばりちらすという、お父
ちゃんにも、お客さまにもおいしいものを貰っちゃう！
つまり、どちらにもいい顔しているという要領のよさの
典型である。

一方トラやヒョウとなるとあくまでも「野生派」肉食
でしかも夜行性が強いから人間嫌いが多く、ヒトさまに
対して愛想ふりまくなど決してできない。

サクを越え下手に近づこうものなら、激しく吠えつか
れるのがせきのやま。親代りの我々の「外へ出る！」「
部屋に入れ！」という単純な呼びかけにさえ、抵抗を
示すことが少なくない。そのうえ与えられた餌も我々の
立去ったあとでないと口にもしない。中には強情さのあ
まり餓死するところまでいったトラがあった。つまり、
これがふた昔も前の野生育ち猛獣類一家の「家風」であ
った。

ところがどうだろう。近頃どうも都会つ子育ち、つま
り動物園育ちが多くて精肉や鳥のアラは食べても、栄養
調整のためにと、生きたトリやウサギを与えたら、朝ま
で枕をならべて眠る仕末。捕えて食べるという「食物連
鎖」の関係を知らないのである。

ところでこの稿の主役シンリンオオカミはどうだろ
う。外観でみる範囲、イヌにそっくり。（今日の学説で
はオオカミの先祖とイヌの先祖とは共通のものから由来
していることは確かだが、一般にいわれるオオカミから
イヌになったというのはあやまりだとされている）。学
問的な違いは、素人目には判別しがたいものがあるが、



閉園後、暗くなった空に向かってオスが遠吠えする。夜行性の片りん。

しかしながら、果してこれが確かな飼育馴れかとうけとめていると、やはり、夜行性の片りんを夕陽にむけ吠えはじめる。午後五時入園者が立ち去る頃「ホオウ——ウー」と暗くなった空にオスが長く尾をひくような、あの遠吠えをはじめののだ。するとどうだろう、その声を耳にした隣のジャッカルもキツネもタヌキもが「別人」のように急速に動きはじめるのである。

その性格がイヌに類似しているなら、家庭で飼われるイヌの人に対する馴れ方を知れば些細な説明を要しない。チンパン一家と同じ人馴れぶりと思えばよいだろう。

しかしながらである。人間には絶対にだまされなかった、あの『狼王ロボ』のはなしを思うとき、やはりイヌとは違う何かがあるのである。利口さに加えてあの俊敏さ、人間でも集団でいるとき、あれほどのリーダーシップをとれるものではない。一頭でえものを襲うこともあるが、数頭共同でえものを追う場合が多く、このときにはまことにうまく『狭みうち』で助けあい、しかも捕えたものはみんなの食料として分けあうのである。

ところで、そのオオカミも近頃の世代はたいていが動物園生れの動物園育ち、ある意味では過保護的な育ち方をしたことも手伝って、ほとんど我々をおどしたり、咬みついたりはない。係員の姿に眼をほそめ走り寄ってくる。その表情は、人間との『おつきあい』をおぼえたあのイヌの喜びまわりつくせいいっぱいの表現である。

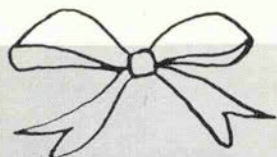
つまり、我々飼育者には危害を加えないとして安心していただけであって、身も心も家畜化、イヌ化''を示しているわけではない。

鼻面をさすらせる彼等でも、前述『殺生』を忘れたトラ共とちがい、生きたままの小動物を与えれば食料にする闘志をもっている。

しかも、毎日の餌も、待ちかまえては食べない。係員が立去ったあと仲間たちと口を揃えて闇に食事をするのだ。さらにはからだの束縛を極度に嫌って、せまい寝室内にも深夜でないと決して入らない。

つまり、尾を振る彼等ではあっても、無防備な姿をさらす、食事や眠りには、依然として身を守る本能を示しているのである。

オオカミは春夏はオスメス、番で生活し、冬には十頭内外の群を作って、遠くえものをもとめ出歩くが、このオオカミたちの天敵は野生でも、そしてオリの中でもやはり人間なのであろう。



おみやげは フレッシュバターが
たっぷり入った ローヤルの
ホームメイドクッキーです。

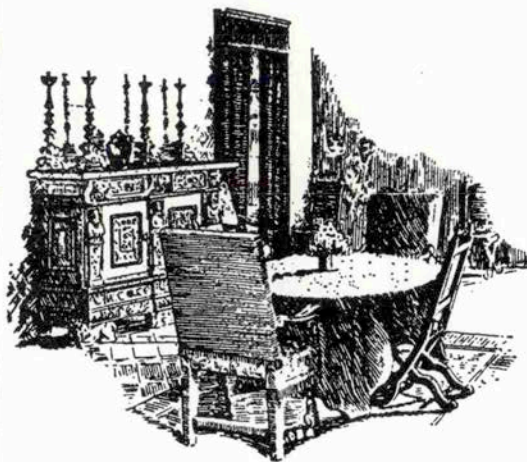


ご予算に応じて各種ケーキの予約を承ります。
営業時間 9:00AM~12:00PM 毎日曜休み



神戸三宮生田東門筋
TEL. 331-5628

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL03(211)0511
本店(渋谷)7階 TEL03(462)3180}

工場 神戸市垂水区多聞町 小東山975-35
神戸木工センター TEL(078)706-5913

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西 店/三宮センター街・電話 331-8836(代)

東 店/三宮センター街・電話 331-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 391-4303

東京

銀座コア店/4階着物コア・電話573-5298(代)

渋谷東急店/5階和装名家街・電話462-3409(直)

日本橋東急店/4階和装名家街・電話211-0511(代)

(内線294)

池袋パルコ店/4階着物小路・電話987-0561(直)

水がうれしい夏!

マット・ゴムボート・ビニールプール
カメラにそろった水遊び用品



三宮方面でのお買物は…
さんちか店 ファミリータウン 391-4045
三宮店 市街地改造のため仮店舗にて営業中
元町方面でのお買物は…
元町店 元町通3丁目山側 331-0090
パンフウ店 元町通1丁目不二家前 391-0768

「神戸つ子」と逢える店

次のお店にも月刊「神戸つ子」を
おいていますので御利用下さい。

美容室井上(多聞コーポラス一階)
アトリエヨシコ(トアロード)
元町画廊(元町穴門筋)
阿以子(生田神社西)
あかねや(三宮・日生ビル浜側)
蝦夷(東門筋東門会館一階)
グラムール(三宮・岸ビル地階)
くる実(東門筋北角)
さち(三宮・伊藤ビル二階)
シルバームーン(生田神社西)
デキシールランド(フラワールロード)
ヌベール(三宮)
マゼラン(三宮・日生ビル浜側西)